

## 令和3年度第1回「総合的な子供の基礎体力向上方策（第4次推進計画）」作成委員会議事要旨

1 日時 令和3年7月12日（月） 午後3時から午後5時まで

2 場所 東京都庁第二本庁舎 31 特別会議室 22

### 3 議事概要

#### (1) 東京都教育委員会挨拶 指導推進担当部長 瀧沢佳宏

- ・ 今年度の「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査（東京都統一体力テスト）」は、感染症対策を講じながら例年と同様に全校で実施とし、今後、子供たちの体力の現状を把握するとともに、東京都の児童・生徒の体力向上や生活・運動習慣の確立に向けた取組の改善を図っていきたい。
- ・ 本日は、第4次推進計画における成果指標や具体的な取組等について、協議をお願いします。

#### (2) 委員長挨拶

- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う影響は、私たちの行動・意識・価値観にまで多方面に波及しつつある。学校教育もその例外ではなく、学びを保障する手段としての遠隔・オンライン教育に大きな注目が集まっている。

これからの学校教育を支える基盤的なツールとして、ICTはもはや必要不可欠なものであるとともに、体力向上や健康の保持増進を図ることは、どのような時代であっても変わらず重要である。

このことを前提として、心身の発達段階に応じた体力向上に向けた取組や生活運動習慣等の改善に向けた方策を検討していくことが求められる。

#### (3) 説明（事務局）

##### ○ Tokyo アクティブプランの策定について（資料3）

- ・ これまでの取組で「総合的な子供の基礎体力向上方策（第1～3次推進計画）」を策定し、東京都の子供の体力向上に関わる取組を推進してきた。その結果、体力合計点平均値は、東京都統一体力テストを開始した平成23年度から全ての校種で向上傾向を示している。特に、小学校においては全国平均値を上回っている状況である。一方、運動やスポーツが好きな子供が、学年が上がるにつれて減少する傾向や、朝食を毎日食べない子供、睡眠が6時間未満の子供が、学年が上がるにつれて増加する傾向があるなどの課題がある。
- ・ 「体力テスト」については、昨年度、全校実施ではなく希望する約4割の学校で実施をした。体力の傾向は、中学生・高校生において、中学1年生の男子以外は体力合計点平均値がどの学年も下がっている。
- ・ コロナ禍における運動機会の減少等による体力低下や生活習慣等の改善が課題である。
- ・ 第4次推進計画の概要は、感染症対策を講じながら、子供の健やかな学びの保障との両立を図る「新しい日常」（ICTの活用等）における取組の推進である。
- ・ 取組の視点として、第1に「する」、「みる」、「支える」、「知る」といった運動やスポーツとの多様な関わり方、第2に体力や技能の程度、性別等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を卒業後も社会で実践することができるための共生の視点、第3に東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承、第4に働き方改革を設定している。

○ 作成委員会の経過について（資料4）

- ・ 令和2年度の第1回作成委員会では、第3次推進計画の取組と児童・生徒の体力等の現状、第4次推進計画の方向性について御協議いただき、「運動やスポーツに多様な形で関わること」、「授業の工夫・改善」、「共生の視点」、「ICTの活用」、「運動が楽しいと思える子供の増加」、「DE層の子供に対するアプローチ」、「生活習慣の確立」、「きついことはしたくないが、運動部に入りたいという生徒」、「指定校の成果を広げていくこと」等について御意見をいただいた。
- ・ 第2回作成委員会では、各作成委員からの御講演、第4次推進計画の成果指標等について御協議いただき、「運動やスポーツとどのように関わっていくか」、「体力・運動能力テストの結果をどのようにフィードバックするか」、「運動経験は必要」、「運動機会の創出」、「生活習慣の立て直し」、「運動部活動は、短時間に合理的でかつ効率的・効果的な活動」、「教員の負担軽減」等について御意見をいただいた。

○ 成果指標、取組等（案）

- ・ 成果指標は、数値で把握することができる指標にしている。
- ・ 取組の方向性1「質の高い授業の実践」では、体育・保健体育科の授業は楽しいと回答している子供は、卒業後も自主的に運動やスポーツをしたいと思っている結果が出ていることから成果指標にしている。
- ・ 取組の方向性2「運動習慣の確立・定着・改善」では、成果指標を1週間の総運動時間60分未満の子供の減少とした。
- ・ 取組の方向性3「生活習慣の確立・定着・改善」では、成果指標を「朝食を毎日食べている子供の増加」「睡眠時間が6時間未満の子供の減少」とした。
- ・ 取組の方向性4「運動部活動の推進」では、成果指標を「今の部活動が自分にとって充実した活動になっていると感じている生徒の増加」とした。
- ・ 取組の方向性5「気運醸成」では、成果指標を「学校で『運動するための体力』や『健康に生活するための体力』の目標を具体的に設定し、自校の取組の改善を図る校数の増加」とした。
- ・ これらの取組の方向性を踏まえ、子供たちが、運動やスポーツとの多様な関わりをとおして、健康で活力に満ちた生活をデザインすることができるようにしていきたい。また、その成果指標として、各取組の方向性の成果指標に加え、運動やスポーツ（する、みる、支える、知る）は好きと思う子供の増加、体力テストDE層の子供の減少を設定したいと考えている。
- ・ 今回、特に大切にしたい成果指標を掲載したが、各取組の方向性の状況を評価するためには、他の成果指標も設定していく必要があると考える。
- ・ 各取組の方向性における成果指標、主な施策の内容について御協議いただきたい。

(4) 協議

○ これまでの取組、概要について

- ・（委員）取組の視点と方向性の関係について、「共生」「働き方改革」「レガシー」等と取組の方向性について明確にしていく必要がある。
- ・（事務局）共生の視点は「授業改善」「運動習慣の確立」、レガシーの継承は「教育実践」を想定している。
- ・（委員）運動習慣と生活習慣をどのように分けていくかが今後の課題である。

- ・(委員) 児童・生徒から意見の聞き取りについて、子供たちの声を拾うことは意義がある。
  - ・(委員) 体力テストに、運動等への意識について質問があってもよいのではないか。体力テストの結果と子供たちの意識について活用の仕方が見えた上で聞き取りを実施することが有効である。
- 取組の方向性について
- ・(委員) 「運動習慣の確立・定着・改善」②多様な運動の機会の確保に向けた外部指導者との連携について、どのような連携なのか。
  - ・(事務局) 授業でオリンピックを招へい、放課後にヨガや太極拳の講師を招へい等を想定している。
  - ・(委員) 「生活習慣の確立・定着・改善」②健康教育の推進に向けた外部指導者等との連携について、どのような連携なのか。
  - ・(事務局) 教員対象に有識者の講演会を実施し、健康教育について理解を深めることができるような機会を設定する。
  - ・(委員) 「運動習慣」と「生活習慣」を分けることについては検討が必要である。例えば、国際的には、子供の身体活動、睡眠時間の短さ、座位活動の多さが問題になっており、運動習慣の指標、睡眠時間の指標、そして座位時間の指標として多くの国で用いられているのがスクリーンタイムである。運動習慣だけ出すことで難しさが生じるのではないか。
  - ・(委員) 幼児はどれだけ楽しく体を動かすかが重要であり、興味がないと動かないので、教員の指導力が大切である。「習慣」は幼稚園だけでは難しいので、保護者を巻き込むことが重要である。
  - ・(委員) 運動習慣の確立に向けて、きっかけとなるのが「楽しい授業」である。広く捉えれば生活習慣の中に運動習慣も入るので、切り離して考えるのは難しい部分もある。スクリーンタイムも重要な要素になると考える。
  - ・(委員) 学校においては「質の高い授業」が重要であり、小学校期における専門的指導の充実(教科担任制)が施策として今後必要になると考える。
  - ・(委員) 教科担任制については、一部「交換授業」として実践されているが、今後はさらに発展させていく必要がある。また、「生活習慣の確立・定着・改善」については、施策として保護者との連携も必要だと考える。
  - ・(委員) 特別支援学校に通っている子供たちは、運動する機会が制約されるので、学校における運動部活動だけでなく、地域との連携も考えていく必要がある。
  - ・(委員) パブリックコメントや子供を対象にした聞き取り調査について、分かりやすい見せ方や言葉の説明が必要である。
  - ・(委員) デジタル機器の活用は、一人一台端末の活用も含めた捉えでよいのか。
  - ・(事務局) 新しい日常の ICT の活用は前提(基盤)として、今後の取組について考えていく。
  - ・(委員) 子供たちの心身の健康のバランスを取ることも必要である。「運動部活動の推進」では、多様なニーズに対応した部活動や体力向上につながる部活動の在り方を考えていく必要がある。
  - ・(委員) 「質の高い授業実践」が基盤となる。運動の仕方を身に付けることで運動習慣や生活習慣の確立につながるのではないか。教科担任制については、現在、モデル地区を指定して研究を進めているので、「質の高い授業実践」とつなげていくことが必要である。
  - ・(委員) 取組の視点と方向性は重層的に関わってくるため、学校・保護者・生徒に分かりやすいものにする必要がある。また、新学習指導要領のテーマとして「探究」の視点もあるため、生徒が自ら体力の課題を発見し解決していく取組もあればよいと思う。

- ・(委員) 特別支援学校では、部活動の参加や身体活動について様々な制約があるため、授業時間で体育的な活動をどう充実していくかが重要である。

#### ○ 成果指標について

- ・(委員) 5点ある。1点目は、施策と関係なく成果指標を取っている場合は、施策がどのように影響があったのか分析できていない課題があった。例えば、施策の前後において、同じ指標でデータを取る、施策を実施している学校とそうでない学校を比較分析して、どのような効果があったのか分析するなどが考えられる。2点目は、「質の高い授業」において、数値で表すのが難しいが、どのように実践したのか、どのような課題があったのかについて明らかにすることが重要である。3点目は、運動習慣と生活習慣の指標を分けることについて、今後も議論が必要である。4点目は、日常生活の指標として「体を動かしたい」「体を動かすのは楽しい、やってみたい」があってもよいのではないか。5点目は、幼児の成果指標として幼児期運動指針で「一日60分間体を動かす」がある。また、運動量とは別に「運動の質」について成果指標があるとよい。
- ・(委員) 「体育の授業が楽しい」以外に、「体育の授業で友達と助け合ったり、役割を果たしたりするような活動を行っているか」「友達同士やチームの中で話し合う活動を行っているか」「授業の始めにねらいが示されているか」など、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を活用した方がよい。
- ・(委員) 5点ある。1点目は、運動についての定義が必要である(1日60分以上・汗をかくくらい等)。2点目は、生活習慣の成果指標「睡眠時間6時間」は、子供の発達段階もあるので検討が必要である。3点目は、スクリーンタイムの指標はあった方がよい。4点目は、スクリーンタイムに対して外の時間として「グリーンタイム」という指標があってもよいのではないか。5点目は、少なくともスクリーンタイムよりもグリーンタイムが長い方が健康にとっては大事だと考える。
- ・(委員) 幼児期は多様な動きや運動の質が大切である。また、幼児自身のアンケートは難しいため、教員や保護者の協力が必要である。
- ・(委員) 成果指標として、「体育の授業が楽しい」と回答した子供の「体力合計点」の相関や、第3次推進計画との比較があってもよい。また、「運動するための体力」と「健康に生活するための体力」を関連させる成果指標があってもよい。小学校は休み時間など授業以外の体育的な活動があるため、その指標があってもよい。
- ・(委員) 「質の高い授業」の成果指標として「授業が楽しい」だけでは分かりにくい部分もあるので検討が必要である。また、「運動部活動の推進」では「子供にとって充実した活動になっているか」だけでは分かりにくいので、「部活動に何を求めるのか」「それに対してどうなのか」の2段階の成果指標が必要ではないか。
- ・(委員) 「質の高い授業」では、「授業が楽しい」をどのように分析するか、また、教員が質の高い授業をどのように捉えているかも重要である。子供たちの「授業が楽しい」は捉え方が様々なので、具体的な言葉で成果指標を設定することが必要である。
- ・(委員) 取組が指標とつながることがよいことだが、体力の数値はすぐには上がらないので、数年間を見通して考えていくとよい。
- ・(委員) 最終的な「生活をデザインする」は、子供の意欲をどれだけ育てるかが重要である。
- ・(委員) 体力の数値はすぐには上がらないが、DE層の子供が減少することは質の高い授業につながっているという捉えもできる。

- ・(委員)「子供たちが運動やスポーツとの多様な関わりで健康で活力に満ちた生活をデザインする」考えると、スクリーンタイムとグリーンタイムの指標は大切になると考える。
- ・(委員長) 指標(数値)を達成しようとするため、子供たちが運動やスポーツを嫌いにならないような視点も重要である。
- ・(事務局) 取組の視点や方向性、成果指標と施策のつながりについては、本日の意見を基に検討していく。

(5) 事務連絡(事務局)

- ・令和3年度作成委員会(第2回)を令和3年の10月又は11月に実施する予定である。

## 4 出席者

【作成委員】				
		所属・職	氏名	出席
1	学識経験者	日本女子体育大学体育学部 教授	高橋 修一	○
2		十文字学園女子大学教育人文学部 教授	鈴木 康弘	○
3		順天堂大学スポーツ健康科学部 准教授	荻原 朋子	○
4		日本体育大学体育学部 教授	野井 真吾	○
5	学校関係者	東京都国公立幼稚園・こども園長会（江東区立豊洲幼稚園園長）	高橋 由美子	○
6		東京都小学校長会（大田区立田園調布小学校 統括校長）	本田 幸彦	○
7		東京都中学校長会（三鷹市立第三中学校 校長）	宮城 洋之	○
8		東京都公立高等学校長協会（都立富士高等学校・附属中学校 統括校長）	野村 公郎	欠席
9		東京都立特別支援学校長会（都立永福学園 統括校長）	伏見 明	○
10	関係者 教育委員会 区市町村	特別区教育委員会指導室課長会（荒川区教育委員会指導室長）	津野 澄人	○
11		東京都市管理指導室課長会（狛江市教育委員会教育部理事）	小嶺 大進	○
12	教育庁関係者	東京都教育庁指導推進担当部長 <副委員長>	瀧沢 佳宏	○
13		東京都教育庁総務部企画担当課長	岐下 英男	○
14		東京都教育庁都立学校教育部学校健康推進課長	中坪 直樹	○
15		東京都教育庁地域教育支援部義務教育課長	北澤 多美	○
16		東京都教育庁指導部指導企画課長	栗原 健	○
17		東京都教育庁指導部義務教育指導課長	中嶋 富美代	○
18		東京都教育庁指導部高等学校教育指導課長	堀川 勝史	○
19		東京都教育庁指導部特別支援教育指導課長	島添 聡	○